

## ボツワナ通信 NO.8

### 南アフリカランキングイベント

まず、今年初の対外試合に南アフリカのプレトリアへ2月6日から8日にかけて行って来ました。この大会は、南アフリカの各州の代表が集まり、名前の通り、各階級で順位を決める大会です。

また、南アフリカの選手にとっては、国際大会への予選会に位置づけされている重要な大会でした。ボツワナチームは特別に招待していただき参加しました。

結果は、金メダル1つ、銀メダル6つ、合計7つのメダルを獲得。決勝で負けた5人は、紙一重の差で負けた者もいるので、勝たせることができず、とてもふがいなく思いました。

また、チームで1番の実力者の選手が怪我で途中棄権した事は非常に残念でした。

最後に、長年ボツワナ柔道界を知る南アフリカ柔道連盟の方々から「ボツワナの選手は見違える程強くなっている。」というような様々な有り難いお言葉をたくさんもらい、とても嬉しく思いました。

### <移動中のハプニング>

ボツワナの首都ハボロネから南アフリカの首都プレトリアまで陸路で順調に行けば、4時間で着きます。今回は、オリンピック協会のバスで向かったのですが、南アフリカのタウンシップに住む人々によるストライキが道路で行われており、何度も足止め、遠回りをしました。車に石を投げつけてきたり、道路に火がつけられたり、バリケードが張られたり、後の車は蹴り飛ばされてしまし、横の車は金銭を脅し取られていました。夕方に着く予定が、ホテルに着いたのは、なんと深夜12時を回っていました。そんな危険を感じるような状況でも生徒は我関せずで、逆に勇気ももらいました。



## アフリカジュニア・カデ選手権大会 in チュニジア

3月中旬から末にかけて、アフリカジュニア・カデ選手権が開催されたチュニジアへ代表監督として行ってきました。

### 大会1日目

カデ(17歳以下)の試合が行われました。

1人が運良く勝ち進み、銅メダルを獲得することができましたが、期待していた生徒が思うような試合をできず、上位に進出させてあげることができませんでした。コーチの難しさを改めて実感しました。

朝6:30からの計量から始まり、途中4時間の昼休憩(お祈りの時間も含む)を挟み、全ての試合が終わったのは夜9時でした。今日の朝のことが昨日の出来事とってしまうぐらい本当に長い1日でした。

上位を占めたのは、北アフリカの国々(エジプト、チュニジア、リビア、アルジェリア、モロッコ)で、彼等の技術の高さには改めて感心させられました。また、白人ばかりが表彰台に上がるのを見て、アフリカ選手権というのを忘れてしまいそうでした。

今日は、立て続けに仲間が負けて行くのを見て明日に試合を控える選手達のモチベーションが下がっていましたが、「柔道は簡単には強くないし、勝つのは難しい。だからこそ、柔道はやりがいのあるスポーツだ。」と伝えました。彼等を倒して南部アフリカの国々、もちろんボツワナがいつか金メダルを取るのを夢見て指導していきたいと思います。

### 大会2日目

ジュニア(20歳以下)の試合が行われました。

昨日に引き続き、ボツワナチームは厳しい戦いが続き、勝ち進めない悪い流れでしたが、期待していた1人が敗者復活線まで駒を進めました。彼は、惜しくも、メダルには手が届きませんでした。大舞台で堂々とした戦いをしてくれました。

また、明らかな力不足で負ける選手もいましたが、あと一步で、、という選手も多くいました。力がないわけではないのですが、場数を踏んでいる経験の豊富な選手に上手く試合をコントロールされているような感じの選手も中にはいました。

北アフリカの国々の選手の中には、天性のパワーを持っているような怪力野郎がたくさんいて、生徒は負けるたびに「パワーが足りない」と嘆いていました。力に対抗できるのは、技術とスピードだと思いますが、明らかなパワー不足で負ける選手を見て、やはり一定の力は必要であると実感しました。

環境を比べてしまうと切りがありませんが、彼等は、柔道の盛んなヨーロッパにも気軽に足を運べる恵まれた立地条件を利用し、遠征を重ねて経験と実力を積んでいるようでした。1日2回のトレーニングをし、柔道中心の生活を送っているようでした。



### 大会3日目

最終日の今日は、団体戦が行われました。

通常1チーム、5人でチームは構成されますが、ボツワナチームは、中量級から重量級がないため4人で臨みました。選手不足でエントリーできない国もある中、怪我が心配でしたが、無理矢理エントリー。

初戦は、アフリカで一番の人口の多さを誇る大国、柔道に関しても強豪アルジェリア。0-5の大差で敗退しましたが、「4分間粘ろう」と送り出し、アフリカチャンピオンと残り1分まで立派に戦った選手もいて、とても実りのある内容でした。

そして、迎えた敗者復活戦では、南アフリカと対決。南アフリカも怪我人が出て、ボツワナ同様4人でエントリー。前勝負と読んでいましたが、先鋒が残り30秒で逆転勝利を収めて、完全に流れがボツワナに来たと思います。次鋒も執念の逆転勝ち、中堅は不戦勝。人口4700万人、柔道も全土でとても盛んな南アフリカに人口わずか200万人のボツワナが勝ったのはもちろん快挙であり、歴史的な勝利でした。審判の手がボツワナに拳がった時の盛り上がりは。最高でした。

嬉しい気持ちを抑え、3位決定戦に集中させつつもりでしたが、選手の気持ちはすでに切れており、リビアにボコボコにされて散りましたが、3位決定戦を戦えたのは、彼等にとって本当に大きな自信になったと思います。



## まとめ

3日間、選手の試合を見て、成長している姿が今の強化の方向性は間違っていないと実感した一方で、改めて、勝負の世界の厳しさを知りました。練習をやったからと言って勝たせてくれる程甘くないし、結果が全てだけど、その過程が輝くことで報われる時もある。今後も過程を大切に、出た課題の解決に励み、良い所を更に伸ばしてあげられるように指導して行きたいと思います。

また、初めて北アフリカ強豪国の試合を見て、改めて、彼等には生まれ持ったパワーもあるけれど、練習を積んで鍛えた体力、高度な技術も兼ね備えていると実感しました。特にエジプトチームのキレのある美しい技の数々を見て、改めて基本を教える事の大切さが分かりました。

また、大会中、世界でも通用する選手を育てる国々のコーチと話をし、たくさんの勉強をさせてもらいました。数力国で指導を経験しているコーチから、「当



然の事だけれど、強化には時間がかかる。2年では結果は出ない。目先の結果、目標にとらわれず、辛抱強く、基本を大切にして、強化していったほうが良い。」と言われ、初心に立ち返ることができました。

現在の日本柔道界が抱えている問題を危惧して、それぞれの角度から声をかけてくれる方々がたくさんいて、世界中の国が日本の柔道をリスペクトし、日本、世界の信頼を新たに得て、柔道創始国の再建を願っているのだと思いました。これからも1人の日本の柔道家として、誇りを持ち、今の自分にできることに全うしたいと思いました。

### <チュニジア観光>

滞在中は、非常に忙しいスケジュールでしたが、アフリカでも最も美しい国の一つと言われているチュニジアを観光しないでは帰れないと思い、最終日の午後と出発日の朝に1人で観光に出かけました。同僚を誘いましたが、ボツワナ人はこういう機会でも部屋でのんびり過ごすのが好きで、冒険心は無いみたいです。



その昔、ローマとカルタゴ(古代ローマ時代、北アフリカで最も栄えた旧都市で現在のチュニジア)の間で行われた3度におよぶ戦争で最終的にカルタゴの街は燃やされ、街は廃墟と化しましたが、その後ローマ人により、巨大な遺跡や劇場が建設され、その当時の手つかずの遺跡が今も街のあちらこちらにありました。

また、世界遺産に指定されているチュニスの旧市街地は、アフリカのヨーロッパと言われるだけあり、一歩路地に入るとヨーロッパにいるような錯覚になりました。白とチュニジアンプ



ルーでデザインされた建物が並び、歩いているだけで心癒され、楽しむことができました。  
天気も最高に良く、博物館のある丘の上からはチュニス街と地中海を一望することができました。



### ボツワナの専業農家を訪れる

ボツワナは、広大な土地を保有しているのにも関わらず、農業が全く進んでおらず、ボツワナで売られている農作物のほとんどは、南アフリカから輸入した物という状況にあります。私の友人の1人にボツワナでは大変珍しい専業農家があります。彼の名前は、クリス。

長年に渡る教員生活を引退後、独学で農業を学び、畑を一から作り、彼の畑には、立派に作物が生長しています。最初に畑を訪れた時は、ボツワナにもこんなに熱心な農家があるという事が分かり、とても感動しました。

日本から、農業の専門家がボツワナを訪問している時期に合わせ、時間をいただき、彼の畑と一緒に訪れました。彼の畑は、素人の自分から見ても雑なのですが、色々な工夫があるようで、先生方も感心するような物もあったようです。ただ、水と肥料のやり過ぎという2つが彼の畑の作物が枯れている一番の問題であるようで、この問題で上手に作物が育たないというのは、稀ではないようです。



ボツワナは、乾燥と冷害の影響で作物を育てるのにとても時間がかかるそうです。そこで日本からの専門家達でプロジェクトのチームを組み、ボツワナ国内産業の多様化を図るため、ヤトロファ（南洋油桐）によるバイオディーゼル燃料の生産を目指しています。やはり、乾燥と冷害の環境下で起こるヤトロファ樹木の枯死や育成遅延などの問題があるようです。この技術協力では、乾燥と冷害地域におけるヤトロファの効率的な育成研究、ヤトロファバイオディーゼルの特性の研究、そして生産過程の総合評価などを行い、ヤトロファバイオディーゼルの商業生産に向けた技術的知見と経験の蓄積を図っているそうです。

狩猟民族であるボツワナに農業を浸透させるのは、とても安易な事ではありませんが、それを夢見て研究される先生方のお話も聞けて、ボツワナでは非常に珍しい専業農家として、国の危機のため自分の子供、孫達の将来の為に作物を育てるボツワナ人の熱い話を聞く事が出来ました。



2014年3月30日 青年海外協力隊 ボツワナ 柔道隊員 井坪圭佑